様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ３０ 年　 ６ 月 １８ 日現在

機関番号：３２６８２
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2015～2017
課題番号：１５Ｋ０２６５６

研究課題名（和文）日本語学習者の多義語の意味推測を促す要因の検討

研究課題名（英文）Factors affecting the semantic inferences of polysemic words among Japanese Language Learners

研究代表者
小森　和子（KOMORI, KAZUKO）

明治大学・国際日本学部・専任准教授

研究者番号：６０４６３８９０

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,300,000円

研究成果の概要（和文）：　本研究では、日本語の語種の一つである漢語の中で、日本語でしか用いられないいわゆる和製漢語について、日本語学習者の習得の背景を検討すること、および、こうした日本語の漢語の習得研究に必要な日中対照漢語データベースを構築することを主たる目的として、研究を行った。基礎データとなる日中対照漢語データベースについては、日本語能力試験（旧）４～２級の漢字二字熟語のうち、2078語を対象に、日本語と対応する中国語の語彙特性を搭載したデータベースを構築し、2017年3月に公開した。また、和製漢語の習得については、未習者と既習者を対象に調査を行い、未習者に推測容易な語ほど、既習者に習得されやすいことを実証した。

研究成果の概要（英文）：This research aimed to investigate factors affecting the acquisition of Sino-Japanese kanji compound words (Wasei-kango) among Japanese language learners, and to construct a new database of Japanese-Chinese contrastive kanji compound words. This is necessary for research into Japanese language acquisition. The new database of 2,078 Japanese kanji compound words was published in March 2017. This database includes both Japanese and Chinese vocabulary properties, such as script, reading, degree of vocabulary difficulty, frequency, orthographical and phonological difference between Japanese and Chinese, meanings and so on. With regard to the acquisition of Wasei-kango, research was conducted with two groups of Chinese native speakers: one group with no experience of learning Japanese and the other with an advanced level of Japanese. The results showed that the difficulty of semantic inferences correlates to the difficulty of acquisition.

研究分野：第二言語習得

キーワード：漢語　日中同形語　意味推測　日中対照　データベース　中国語話者　語彙習得

１．研究開始当初の背景

日本語の語種の一つである漢語の中には、「緊張」と『紧张』のように、日本語、中国語の両言語で用いられる同形語もあれば、「既婚」、「派手」のように、日本で作られ、日本語でしか使われない漢語もある。

前者の同形語は、両言語で用いられると言っても、意味が同じ同義語もあれば、一部同じで一部異なる類義語や、二言語間で全く異なる異義語もある。中国語を母語とする日本語学習者（以下、中国人学習者）にとって習得が困難なのは、同形類義語であると言われており、これまで、中国人学習者の同形語の習得研究は、その多くが、類義語を対象に行われてきた。しかし、その類義語の習得研究においても、「*今日の授業はよく了解しました」、「*とても厳重な問題があります」など、主に、中国語独自の意味の日本語への負の転移に焦点が当てられており、日本語独自の意味（以下、日本語独自義）が習得されにくい要因については、ほとんど研究されてこなかった。

一方、後者のように日本語でしか使われない漢語（以下、N 語）は、意味の一致・不一致が問題となる同形類義語や同形異義語に比べて、習得しやすいという成果もあり、習得研究の対象となることはあまりなかった。N 語は、日本語にしかない漢字二字の組み合わせの語であるため、中国人学習者にとって、視覚的にも卓立性が高く、注意が向けられやすいことが影響して、明示的な学習や教授の対象となりやすい。また、「司会」－『主持』のように、全く異なる中国語が対応するものの、語と語の対応付けができれば、同形語のように意味の微妙なずれによる誤用などは起きにくい。そのようなことから、N 語については習得研究としてはあまり注目されてこなかった。しかし、日本語独自の漢語である N 語の習得や、N 語の意味の習得が、なぜ比較的容易であるかは、詳細な検討が不十分である。

また、第二言語としての日本語の習得研究においては、要因などを統制して、調査や実験を行う必要があるが、同形語や漢語について、中国人学習者の習得について検討するための基礎データとなる漢語の語彙データベースは、その開発が不十分である。日本語の習得研究を行うにあたっては、日本語と中国語の対照が可能なデータベースの構築を行わなければ、今後の研究が促進しないという状況もある。

２．研究の目的

本研究では、日中対照の漢語データベースを構築し、研究の基礎的な資料の整備を行う。その上で、日本語独自の意味や用法を持つ漢語に焦点を当て、中国語を母語とする者（日本語未習者、日本語既習者）がどの程度正確に、意味の推測、または、習得ができるのか、推測においては、どのように推測を行うのか、意味推測の容易さは習得の難易に関わるのかを、実証的に明らかにする。

３．研究の方法

まず、日中対照漢語データベースについては、朴・熊・玉岡（2014）のデータベースの見出し語を精査し、（旧）日本語能力試験の（旧）４級から２級の語の漢字二字熟語 2,078 語を見出し語とした。この 2,078 語について、表記、読み、語彙難易度（JLPT 語彙級）、使用頻度、品詞、語義、文化庁（1978）による漢語の分類、中国語の有無（中国語にもある場合は、中国語の表記や語義等の情報）、日中音韻類似度、日中書字異形度等の語彙特性をエクセルに入力した。

また、日本語独自の漢語やその意味については、第一段階として、上記の漢語データベースから N 語を抽出し、日本語未習者を対象に、日本語の知識がなくても、正確に推測できるのかを調査によって確認した。また、未習者にも推測できる語や、推測が容易だと中国語話者が認知した漢語ほど、日本語学習者には習得が進みやすいのかについては、日本語学習者に調査を行った。

４．研究成果

4.1. 日中対照漢語データベース

日中対照漢語データベースについては、以下のような、日本語の語彙特性、中国語の語彙特性、および、日中の対応関係の特性を入力した。

★日本語の語彙特性

①見出し（＝読み）（例「あした（明日）」），②漢字表記，③音訓情報（O：音読み，K：訓読み，ZF：常用漢字付表，SR：熟字訓等），④難易度（JLPT 語彙級、日本語教育語彙表(ver1.0)），⑤使用頻度（Sketch Engine，新聞コーパス（朝日，毎日）），⑥逸脱率（荒牧他(2012)），⑦語義，品詞，用例（『新明解国語辞典（第 7 版）机上版』）

☆中国語の語彙特性

⑧表記（簡体字），⑨読み（ピンインと四声），⑩使用頻度（Sketch Engine, BCC（北京語言大学中国語コーパス），　⑪語義，品詞，用例　（『现代汉语词典（第 6 版）』，『现代汉语规范词典（第 3 版）』）

★☆日中の対応関係

⑫日中書字異形度（茅本（1996）の指標：「0」（完全一致）～「4」（完全不一致），但し一部改変あり），⑬日中音韻類似度（早川・于・初・玉岡（2017）の指標：R の sdists 関数により単語間の重み付け編集距離を計算），⑭日中意味一致度（文化庁(1978)の分類，S（同形同義）O（同形類義）D（同形異義）N（日本語のみ））

これらの情報を搭載したデータベースは、日本語母語話者の研究協力者１名、中国語母語話者の研究協力者１名に入力作業を依頼

して、2015 年、2016 年に作業を行って暫定版を作成し、2017 年 3 月発行の『国際日本学研究』第 9 号にて概要を公開した。

また、2017 年度には、このデータベースの全体像を把握するために、計量的な分析を行った。その結果、まず、語彙難易度別の度数は、図１のように、約 75%が中級前半と中級後半レベルの語であることがわかった。

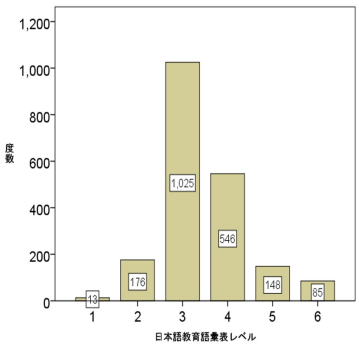

図１　度数（難易度別）

さらに、語彙特性間の関係について検討したところ、難易度と Sketch Engine などの使用頻度の間に相関が認められ（Sketch Engine [r=0.230, df=1993, p<.001]. Tono et al. (2013) [r=0.432, df=1993, p<.001] ）、難易度が低い語は使用頻度が高い傾向があることがわかった。そこで、難易度を予測する変数が何かを確認するために、重回帰分析を行ったところ、表１のように、日本語使用頻度，逸脱率，書字異形度，中国語使用頻度などが有意な説明変数であることがわかった。

表１　語彙難易度を予測する変数

変数名	標準偏差	β	t 値	有意確率
予測変数				
語彙難易度（日本語教育語彙表）	0.907			
説明変数				
日本語使用頻度（Tono et al., 2013）		0.326	10.395	***
中国語使用頻度（Sketch Engine）		-0.354	-5.117	***
日本語使用頻度（Sketch Engine）		0.133	4.153	***
逸脱率		-0.076	-3.507	***
日中書字異形度		-0.072	-3.409	**
中国語使用頻度（BCC）		0.179	2.582	**

注1：n=1789. *** p<.001, ** p<.01
注2：決定係数（R^2）は、.218であった

さらに、本データベースを作成する動機となった日中同形語について、その諸相を検討した。まず、本データベースのうち、日中同形語は 1,522 語（73.24%）あった。これらについて、語彙特性間の関係を検討したところ、語彙難易度と新聞の使用頻度に正の相関関係が認められた（朝日新聞 [r=0.244, df=1475, p<.001]，毎日新聞 [r=0.227, df=1467, p<.001] ）。これは、難易度が低い語ほど、新聞での使用頻度が高いことを示している。また、語彙難易度と中国語の使用頻度にも正の相関が認められた（中国語 BCC [r=0.111, df=1473, p<.001] ）。

さらに、朝日新聞の使用頻度上位 20 語を見ると、そのうち 18 語が日中同形語であり、さらに、14 語は日中同形同義語であった。また、Tono et al（2013）の使用頻度上位 20 語を見ても、14 語は日中同形語であり、その中の 7 語は同形同義語であった。

つまり、日中同形語の中で語彙難易度の低い語は、日本語だけでなく、中国語でも使用頻度の高い語であり、さらに、新聞での使用頻度の高い語ほど、中国語にもある同形語であり、かつ、意味も同じ同義語であるということである。この結果からも、中国語母語話者にとって、日中同形語の存在が日本語の理解や習得に有効であることが確認された。

なお、この計量的な分析結果については、2017 年 11 月の日本語教育学会秋季大会で発表した。また研究代表者や研究協力者がこのデータベースを利用して調査対象語を抽出するなどして研究を行っているが、その成果として、黄（2017）「中国語を母語とする日本語学習者の同形語と機能動詞の連語形式の習得に関する研究」が『国際日本学研究論集（明治大学大学院）』第 6 号に掲載された。

4.2. 日本語の漢語の意味推測

日本語の漢語や N 語の意味推測に関する研究では、まず、日本語を学んだことのない中国語母語話者が、どの程度、正確に意味推測ができるのかを検討するために、以下を研究課題とした。

課題 1：日本語未習者は N 語をどの程度正確に意味推測できるか
課題 2：日本語未習者は N 語をどの程度推測しやすいと評定するか
課題 3：語構成のタイプと推測のしやすさとは関連があるか

この研究では、上述のデータベースから、N 語で語義が一つのみの 74 語（医者、映画、栄養、欧米、会社、火事、感心、機嫌、寄付、休講、牛乳、恐縮、気楽、近所、計画、月給、見学、見当、見物、懸命、孝行、財布、砂漠、司会、自宅、自慢、車掌、社説、社長、重役、授業、冗談、商売、食事、食卓、食器、心配、水泳、制限、生徒、世話、雑巾、相談、草履、速達、滞在、大木、単語、遅刻、知人、駐車、適切、到着、都心、途端、納得、能率、拝見、配達、売買、発見、封筒、普段、布団、方角、名所、役所、予定、予約、料金、漁師、両親、両方、廊下）を抽出し、調査対象語とした。調査では、課題 1 を検討するために、推測した意味を中国語で記述するテストを実施した。課題 2 については、これらの N 語とその中国語相当語をペアで示し（『财布』―『钱包』）、意味推測のしやすさについて、5 段階で評定する質問紙調査を行った。また、課題 3 については、前項漢字と後項漢字の意味的関係を、「並列関係」、「修飾関係」、「客体関係」、「接辞」、「その他」に分類した。

調査は 2016 年度に中国の大学生で日本語未習者 42 名を対象に実施した。

調査の結果、まず、推測の正確さについては（課題 1）は、74 語（74 点満点）につい

て 42 名の得点を計算したところ、表 2 のようになった。平均は 23.61 点で、約 32%の正答率であった。日本語が未習であっても、N 語の約 3 割は日本語としての意味が推測できたということである。

表 2　意味推測テストの結果

M	*SD*	*Min*	*Max*	*N*
23.61	4.79	13.00	35.50	42

注1：*M*は平均、*SD*は標準偏差、*Min*は最低点、*Max*は最高点、*N*は調査対象者数を示す。
注2：満点は74点である。

また、推測のしやすさの 5 段階評定については（課題 2）、74 語の評定の平均値は 3.19 で、中央値の 3 に近い値であった。また、最高（推測しやすい）は「医者」の 4.98、最低（推測しにくい）は「途端」の 1.21 であった。

意味推測の正確さと、推測のしやすさについては、強い正の相関が認められ［r=.889, df=74, p<.001］、推測しやすいと感じる語ほど、正しく意味推測ができていることもわかった。

さらに、課題 3 を検討するために、語構成別に推測の正確さ（通過率）や、推測のしやすさ（評定値）の平均等を求めたが（表 3）、語構成別の特徴はあまり顕著ではなかった。

表 3　語構成別の通過率・評定値

語構成	通過率		評定値		*N*
	M	*SD*	*M*	*SD*	
修飾	0.28	0.19	3.23	1.03	49
客体	0.21	0.15	3.08	1.16	12
並列	0.35	0.17	3.41	1.04	11
その他	0.00	0.00	1.83	0.54	2
全体	0.27	0.19	3.19	1.06	74

注：*M*は平均、*SD*は標準偏差、*N*は項目数を示す

この結果については、論文化し、2018 年 2 月末に投稿し、査読の結果、2018 年 7 月刊行予定の『中国語話者のための日本語教育研究会』第 10 号に掲載が決まっている。

さらに、2017 年度には、未習者が意味推測に成功しやすい語ほど、日本語学習者は習得しやすいのか否かについて検討するべく、調査を実施した。その結果については、現在、論文として投稿中である。

さらに、2016 年度には天津外国語大学にて、中日国交正常化 45 周年記念の学術交流会にて、招待講演として、日本語の漢語習得研究について講演を行い、本科研の研究成果について公開、発表している。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 10 件）

① 小森和子・三國純子・徐一平（2016）「中国語を母語とする日本語学習者の漢語と和語の連語形式の習得に及ぼす母語の影響－モンゴル語を母語とする日本語学習者との比較から－」『日本学研究』26, 240-258, 査読有.

② 李在鎬（2016）「語の難しさに関するカテゴリー化」『認知言語学論考』12, 139-162, 査読無.

③ 于劭赟・玉岡賀津雄（2016）「日韓中同形二字漢字語の品詞性ウェブ検索エンジン」『ことばの科学』29, 43-61, 査読有.

④ 玉岡賀津雄（2016）「共起表現研究のためのコーパス検索入門」『レキシコンフォーラム』7, 239-264, 査読有.

⑤ 小森和子・早川杏子・玉岡賀津雄（2017）「日中対照漢字二字熟語データベース」『明治大学国際日本学研究』9(1), 209‐231, 査読有.

⑥ 早川杏子・于劭贇・初相娟・玉岡賀津雄（2017）「日中二字漢字語における客観的音韻類似性指標－主観的音韻類似性指標との比較－」『関西学院大学日本語教育センター紀要』6, 21-34, 査読有

⑦ 小森和子（2017）「日中同形語から見えること－似ているようで似ていない同形語の習得の難しさ－」『日本語学』第 36 巻第 11 号, 56-67, 査読無.

⑧ 熊可欣・玉岡賀津雄・早川杏子（2017）「中国人日本語学習者の日中同形同義語の品詞性の習得 ―語彙知識・文法知識との因果関係―」『第二言語としての日本語の習得研究』20, 63-79, 査読有.

⑨ 玉岡賀津雄（2017）「実験的手法を用いた語彙習得研究」『第二言語としての日本語の習得研究』20, 44-62, 査読有.

⑩ 玉岡賀津雄（2017）「音象徴語と動詞の共起パターンに関する新聞コーパスの共起頻度と母語話者の産出との類似性の検討」『計量国語学』第 31 巻１号, 20-35, 査読有.

〔学会発表〕（計９件）

① 于劭贇・熊可欣・早川杏子・玉岡賀津雄（2015）「同形二字漢字語の品詞性に関する日韓中データベースのオンライン検索エンジンの構築」日本語教育学会 2015 年度秋季大会（2015 年 10 月 11 日, 於：沖縄国際大学）.

② 李在鎬（2015）「日本語教師は語の難しさをどのようにカテゴリー化するか」第 26 回第二言語習得研究会全国大会（2015 年 12 月 19 日, 於：東北大学）.

③ 黄叢叢・小森和子（2016）「中国人日本語学習者の同形語と機能動詞の連語形式の習得」第二言語習得研究会第 27 回全国大会（2016 年 12 月 11 日, 於：九州大学）.

④ 早川杏子（2016）「第２言語の聴解における言語知識と認知の関係」第 19 回関学日本語教育研究会（2016 年 7 月 19 日, 於：関西学院大学）.

⑤ 小森和子（2017）「中国人日本語学習者

の漢語と和語のコロケーションの習得」中日国交正常化 45 周年記念学術大会（2017 年 7 月 17 日，於：天津外国語大学）.

⑥ 小森和子・早川杏子・李在鎬・玉岡賀津雄（2017）「日中対照漢字二字熟語データベースの構築と語彙特性の分析に関する研究」日本語教育学会 2017 年度秋季大会（2017 年 11 月 25 日，於：新潟市・朱鷺メッセ）.

⑦ 早川杏子 （2017）「中国人日本語学習者を対象とした字順の異なる日中漢字語の認知処理－日本語母語話者との比較から－」第 28 回第二言語習得研究会全国大会（2017 年 12 月 17 日，於：お茶の水女子大学）

⑧ 黄叢叢・小森和子（2018）「中国語を母語とする日本語学習者の連語形式の習得」中国語話者のための日本語教育研究会第 41 回研究会（2018 年 3 月 17 日，於：西安外国語大学）.

⑨ 早川杏子 （2018）「心理的側面からみた漢字・語彙学習」第 22 回関学日本語教育研究会『漢字語彙の教育を考える』ワークショップ（2018 年 2 月 23 日，於：関西学院大学）

〔図書〕（計４件）

① 姫野伴子・小森和子・柳澤絵美（2015）『日本語教育学入門』研究社（全 250 ページ、分担執筆「第 2 章　語彙」）

② Tamaoka, Katsuo（2015）Chapter 18: Processing of the Japanese language by native Chinese speakers, in Mineharu Nakayama (ed.) *Handbooks of Japanese Psycholinguistics*, De Gruyter Mouton.

③ LEE, Jae-ho (2017) Management of foreign language education: Japanese language education as an example, in Kazuko SUNAOKA & Yoshiyuki MUROI (eds.), *The teaching of foreign languages in Japan and international academic activities*. Asahi Press.

④ 李在鎬（編）（2017）『文章を科学する』ひつじ書房（全 208 ページ）

〔産業財産権〕

○出願状況（計 0 件）

○取得状況（計 0 件）

〔その他〕

６．研究組織

(1)研究代表者

小森和子（KOMORI，Kazuko）
明治大学・国際日本学部・専任准教授
研究者番号：60463890

(2)研究分担者

早川杏子（HAYAKAWA，Kyoko）
一橋大学・国際教育センター・特任講師
研究者番号：80723543

三國純子（MIKUNI，Junko）
文化学園大学・公私立大学の部局等・教授
研究者番号：00301705

李在鎬（Lee，Jae-ho）
早稲田大学・国際学術院（日本語教育研究科）・教授
研究者番号 20450695

研究分担者
玉岡賀津雄（TAMAOKA，Katsuo）
名古屋大学・大学院人文学研究科・教授
研究者番号 70227263

(3)連携研究者

なし

(4)研究協力者

黄叢叢（HUANG CONGCONG）
明治大学・大学院国際日本学研究科・博士後期課程

髙橋雄太（TAKAHASHI，Yuta）
明治大学・大学院国際日本学研究科・博士後期課程